

## 相愛学園百年史年表（案）

千葉 貞也

### 「相愛学園百年史年表（案）」について

相愛大学総合研究センターは、今年度、「大学アーカイブの構築」というプロジェクトに着手した。本学は百三十年以上の伝統を持っているが、その歴史は十分に整理されているとは言えない。空襲による壊滅的な被害により資料が乏しいことが、その主な原因である。だが、資料を発掘し、整理する営みが恒常的に行われていなかったことも否めない。継続的な共同作業によって現存する資料を確認し、その存在を後世の心ある人に伝える努力をしなくてはならない。プロジェクトの意図として私が理解するのはそのようなことである。今回はそのプロジェクトに従事する過程で確認された資料の一部を紹介する。

昭和六三年十月に『相愛学園百周年記念誌』（以下、「百周年記念誌」と略称）が発行された。今回紹介する「相愛学園百年史年表（案）」は、「百周年記念誌」編纂の過程で作成され、「ゲラ刷り」という形で活字化されただけで公表には至らなかった年表である。①手稿コピー（四百字詰め原稿用紙B4縦書き30枚。「久志本手稿用紙」と印刷されている原稿用紙のコピー）と、②ゲラ刷り（手稿を活字化したもの。B4縦書き1行45字、1ページ49行。9枚。訂正や追記が行われている）の二つが、「相愛学園百年史資料集 S61・6・18」と

いう表題のクリアホルダーに、収められている。執筆者名はどちらにも記されていない。

### 資料の成立状況

「百周年記念誌」の編集後記と奥付、手稿に付されたメモなどから成立事情が推定できる。奥付の複写を示す。

<b>相愛学園百周年記念誌</b>	
昭和六十三年十月二十六日発行	
発行	学校法人 相愛学園
	大阪市東区本町四丁目二十七番地 電話（〇六）二六二一〇六二（代）
企画・編集	相愛学園百年史編纂委員会
印刷	イマイ印刷株式会社
	大阪市城東区関目一丁目十番地二十六 カタログハウス 電話（〇六）九三三二〇一一（代）
（非売品）	

企画・編集にあたった「相愛学園百年史編纂委員会」のメンバーは以下の通りである。

天津 睦子、出雲路 常明、小笠原 慶麿（副委員長）、久志本 秀夫、久万 幸子、酒井 諄、中野 恵海（委員長）、福呂 守久、本多 早苗

その一人、久志本秀夫氏が「手稿」を執筆し、他のメンバーが追記訂正を行ったと思われる。手稿とともに保存されていたメモと、「百周年記念誌」の編集後記によって成立状況が推測できる。

メモには「今井印刷 百年史年表 土曜日の12時までに ゲラ印刷できるように たのむ 15部」とある。なお、今井印刷は記念誌の奥付にあるイマイ印刷株式会社である。さらにゲラ刷りの一部に「SOAINENP 861009」と印刷されている。また、「百周年記念誌」の編集後記に次のような記述がある。

相愛学園百年史編纂委員会が本町学舎に設置されたのが、昭和六十一年六月で、爾（じ）来、約二年四ヶ月、二十数回の委員会を重ねて、やっと最終段階を迎えることが出来た。

おそらく、昭和六十一年すなわち一九八六年の編纂委員会発足後、その年の一〇月九日までに手稿が作成されたものであろう。「861009」は印刷所が原稿を受け取った日付と解釈する。なお一九八六年一〇月九日は木曜日、メモにある「土曜日」は翌々日であったかも知れない。この時点から「百周年記念誌」の発行まで二年、本格的な通史の編纂を行う時間的な余裕はなく、「相愛学園百年史年表（案）」は「案」のままに終わったと思われる。

## 資料の内容と活字化に当たったの処理

「最も困難を感じ、今もその事が我々の肩にのしかかっているのは資料の蒐集しゅうであった」と「百周年記念誌」の編集後記にあり、次に引用する『相愛学園七十年の歩み』（昭和三十三年五月発行）の例言にも資料の乏しさへの嘆きを見ることができている。

一、本書編纂にあたっての難点は、扱べき資料に乏しいことであつた。昭和二十年三月十三日、戦火は学園の全施設・文書記録を焼き尽した。従つて資料はもっぱら旧職員・卒業生の談話・会誌・アルバム等に求めるほかなかつた。

一、本書は学園の正史ではない。正史を編むことは冀いであつたが、信憑すべき基礎定本の乏しさは致命的であつた。従つて本書は断片的資料の寄せ集めであり、モザイク的集録の感なきを得ない。

「相愛学園百年史年表（案）」においても資料の乏しさは同様である。「相愛学園七十年の歩み」所載の年表「相愛学園沿革大要」をもとにして「相愛学園沿革大要」の扱っていない事項、すなわち明治二十一年六月の「相愛女学校設立認可」より前の事項と、昭和三十三年三月の「第八期工事南本館落成」より後の事項を加えたのが、この年表である。皇族に関する記事における敬語の用法など全体的な統一を欠くところも少なくないが、手元の資料によつて、増補修正を前提とした「案」を作成したと考えるべきであらう。

手稿とゲラ刷りとは、どちらも未定稿である。ゲラ刷りをもとに手稿と照合し、ゲラ刷りに手書きで行われた追記訂正を加え、さらに明らかな誤植を訂正したのが、今回掲載する「相愛学園百年史年表（案）」である。未定稿の活字化であるが、現時点での最も詳しい年表であるので紹介することにした。なお、手稿もゲラ刷りも、各項目の日附を、「11・25 大学・短大南港学舎起工式」のような形で半角数字を縦書きで表示しているが、今回は「11・25 大学・短大南港学舎起工式」のような形にした。

また、ゲラ刷りに加えられた追記や誤植の訂正の箇所は、明示しなかった。手稿やゲラ刷りのもとの姿を再現することに意味があると判断しなかったからである。

相愛学園百年史年表（案）

- 明応5年（1496）  
 9・24 本願寺第八世蓮如上人、摂津国東成郡生玉庄内大坂石山の地を選定。  
 9・29 大坂石山御坊歿初。  
 10・8 大坂石山御坊建立。  
 明応7年（1498）  
 11・21 蓮如、石山御坊建立の御文章を書く。  
 明応8年（1499）  
 3・25 蓮如没（85）。  
 天文元年（1532）  
 8・24 山科本願寺、六角定頼・法華宗徒により焼かれる。

- 天文2年（1533）  
 7・25 宗祖影像を石山の坊舎へ移す。以後、石山本願寺のち寺内町（石山八町又は石山十町と称せらる）形成さる。  
 元亀元年（1570）  
 9・12 織田信長、天満森に陣営。石山の川向いの川口、榎岸に出、石山門徒と交戦（石山合戦の発端）  
 天正8年（1580）  
 4・9 第11世顕如上人、宗祖影像を奉じ、石山退去。翌日、紀伊鷺森に到着。  
 8・2 顕如長子、教如、石山退去。坊舎は炎上（石山合戦終る）。  
 天正10年（1582）  
 〔6・2 本能寺の変〕  
 天正11年（1583）  
 7・4 顕如、宗祖影像を奉じて和泉貝塚へ移る。  
 〔11月 豊臣秀吉、三十余州に課して大坂城を修築〕  
 天正13年（1585）  
 8・30 顕如、宗祖影像を奉じて天満に移る。  
 天正19年（1591）  
 8・5 顕如、天満から京都堀川へ移る。  
 11・3 京都本願寺阿弥陀堂石礎。  
 文祿元年（1592）  
 11・24 顕如没（50）。  
 11・25 教如、本願寺を継ぐ。

文禄2年(1593)

9月 教如、御堂の北に退陰。

10・16 秀吉、顕如第三子准如継職の証状を出す。

慶長3年(1598)

11・10 大坂御坊移徙。准如下向。

[8・18 豊臣秀吉没(63)。]

慶長5年(1600)

[9・15 関ヶ原の戦い]

慶長7年(1602)

2月 徳川家康、京都東六条の地四町四方を教如に寄進(東本願寺の分立)。

慶長8年(1603)

3・24 難波御坊(南御堂)の建立遷座法要。

7・6 難波坊舎成るを以て、准如、大坂門徒に津村坊舎修造を依頼。

慶長10年(1605)

この年、大坂に別院再興(北御堂)。

元禄7年(1694)

2月 津村別院、境内地を拡張。

享保9年(1724)

3・21 大坂大火により津村別院焼く。本尊等を木津願泉寺に遷す。

11月 津村別院、敷地を拡張。

享保19年(1734)

10・22 津村別院再興法要。十五世住如上人、嗣法湛如と共に

下向し、法事を親修。

嘉永3年(1850)

2・4 明如上人誕生。幼名峩。

万延元年(1860)

2・21 峩、得度し、新々門跡と称す。

文久2年(1862)

3・20 明如、津村・堺別院等へ赴く。

慶応4年、明治元年(1868)

1・3 鳥羽伏見の戦い。

1・9 大坂城炎上。

1・10 征討大將軍、仁和寺宮嘉彰親王、津村別院を本營とする。

1・22 大阪鎮台が津村別院に置かれる。

1・27 大阪鎮台、大阪裁判所と改称して、西町奉行所跡(内本町橋詰町、現、コクサイホテルの地)に移す。

2・23 津村別院、明治天皇の行在所となる(四十四日間滞在)。新門跡徳如(二世)、明如、敬護にあたる。

[5・2 大阪裁判所を廃して大阪府を設置。]

[9・8 慶応を明治と改元]

明治4年(1871)

10・14 明如、法灯を継承(二世)。

明治19年(1886)

10・30 松原深諦、津村別院知堂(輪番)に任ぜらる。

明治21年(1888)

6・1 私立相愛女学校認可。校長大谷朴子の方(明如上人妹

- 君)。校主松原深諦。予備科三年、本科三年。
- 7・4 相愛女学校開校。校舎は津村別院の対面所鞘の間を使用。生徒数は十数名。
- 明治22年 (1889)
- 4・1 本科四年、選科三年、専攻科一年に変更。
- 12月 松原深諦退職。以後、校主に代り、理事が校務を掌理。小田仏乗、橋寛生、中村善勝が理事となる。
- (2・11 大日本帝国憲法発布)
- (4・1 大阪府四区(北・東・西・南区)が大阪市となり大阪市制発足。区域十六平方キロ)
- (5・20 初めて大阪に電灯がつく)
- 明治23年 (1890) 相愛女学校第一回卒業生本科5名・選科2名  
・裁縫科1名
- 4・1 本科四年、選科三年、高等科二年に変更。
- 12月 小田仏乗、中村善勝退職。小田実乗理事となる。
- (10・30 「教育ニ関スル勅語」発布)
- 明治24年 (1891)
- (12・14 中学校令(明治19)を改正。高等女学校を尋常中学校の一種とする。ただし学科課程等については特別の規定なし)
- 明治25年 (1892)
- 10・11 明如、相愛女学校校舎新築勧誘のため下阪。
- 明治27年 (1894)
- 4・7 相愛女学校、新築落成式。明如臨場の下に行われる。
- (8・1 日清戦争始まる)
- 明治28年 (1895)
- (1・29 高等女学校規定公布。はじめて女子中等教育の内容を明示。入学資格を修業年限四年の尋常小学校卒業者とし、修業年限六年、土地の状況によっては一年の伸縮を認める。また二年以内の補修科と技芸専修科の附設課程も規定する)
- 明治29年 (1896)
- 4・1 予科二年、本科三年、専修科二年、裁縫科三年に変更。
- 明治32年 (1899)
- (2・8 高等女学校令公布。修業年限四年を基本とし、入学資格は年齢十二歳以上、高等小学校第二学年の修了者とする)
- 明治35年 (1902)
- 2月 理事小田実乗退職、大村影応就任。
- 4・1 専修科を補修料と改称。
- 明治36年 (1903)
- 1・18 明如上人没(54)。
- 3・31 校長大谷朴子の方退任。
- 4・1 大谷籌子の方(第三世大谷光瑞猊下裏方)校長に就任。
- 5・31 理事橋寛生退職。河野法海(津村別院輪番)就任。
- (3・7 大阪巡航合資会社発足。大阪市内の河川に巡航船就航)
- (4・20 天王寺、今宮にて第五回内国勸業博覧会開会)

〔9・12 大阪市電開通（築港棧橋―花園橋間）〕

明治37年（1904）

6・14 理事河野法海病没。

〔2・10 日露戦争始まる〕

12月 理事大村影心退職。小田実乘再任。

明治38年（1905）

4・1 本科四年、裁縫科三年、補習科一年、裁縫温習科一年

に変更。

8月 校舎増築。

明治39年（1906）

3・23 相愛女学校を廃止 相愛高等女学校設立認可

4・1 相愛高等女学校と改称。本科四年、技芸専修科三年に

変更。

4・10 併立相愛女子音楽学校を加設。

明治40年（1907）

相愛高等女学校第一回卒業生 本科22名 技芸専修

科30名

7月 雨天体操場新築。

〔3・21 小学校令改正。義務教育を六カ年に延長〕

明治41年（1908）

〔7・8 高等女学校令改正。義務教育年限延長に伴う措置とし

て、入学資格を年齢十二歳以上で義務教育修了者とする。

また一年の伸縮を認めていた従来の規定を改め、

一年の延長のみを認め、修業年限を四年と五年の二種類とする〕

明治42年（1909）

4・1 補習科一年加設。

明治43年（1910）

〔10・26 高等女学校令改正。技芸専修科の規定を改め、主として

家庭に関する学科目を修めようとする者のために実

科を置くことができるようになる〕

明治44年（1911）

1・27 校長大谷籌子の方没（30）

4・1 実科三年加設。

4・21 大谷光明猷下（光瑞門主弟君）校長に就任。

6・13 理事小田実乘退職。大野開蔵就任。

7・25 相愛高等女学校、本山直轄学校となる。

明治45年、大正元年（1912）

7・7 津村別院が境内地の一部を市電用地として譲渡することを大阪市長に承諾。

〔7・30 明治天皇没（61）。大正と改元〕

大正2年（1913）

11・16 大谷光瑞門主来校し、校舎新築定礎式を行う。

〔7・8 市電韮本町線（川口町―谷町三丁目間）開通〕

大正3年（1914）

3・7 校長大谷光瑞退任。光明猷下裏方絃子の方、校長

に就任。

5・14 大谷光瑞門主引退。

〔7・28 第一次世界大戦始まる〕

大正4年（1915）

- 2・7 新校舎起工式。
- 10・3 新校舎上棟式。
- 大正5年(1916) 皇瓦造四階建新校舎落成。七六〇坪、工費一〇万円。
- 2・7 本校財団法人設立、本山より認可。
- 7・22 大正6年(1917) 大谷紘子の方を名誉校長に推し、大野開蔵校長に就任。
- 3・14 大正8年(1919) 天皇 皇后両陛下の御真影を奉戴。
- 2・10 4・4 生徒定員を六五〇とする。
- 10・1 併立家政補修学校を開設。
- 〔6・28 ベルサイユ講和条約調印〕
- 大正9年(1920) 高等女学校令改正。修業年限五年を基本型とする〔7・6〕
- 大正10年(1921) 2・21 生徒定員を八〇〇とする。
- 8・31 家事裁縫教室増築落成。
- 大正12年(1923) 4・1 本科五年、実科四年に変更。生徒定員を九〇〇とする。
- 〔9・1 関東大震災〕
- 大正14年(1925) 5・23 名誉校長大谷紘子の方来校。
- 6・25 新館鉄筋コンクリート三階建校舎落成(旧四号館、現敬愛館西半部)。二四〇坪、工費六万円。
- 大正15年、昭和元年(1920) 8・5 生徒定員を一〇五〇とする。
- 〔12・25 大正天皇没(48)。昭和と改元〕
- 昭和2年(1927) 10・21 大谷昭伯爵(光明院下長子) 得度、法灯継承式を挙行。法号勝如、法諱光照。
- 昭和3年(1928) 2・7 九条武子夫人(明如上人第二女) 没(42)
- 3・31 大谷光照門主を総裁、大野開蔵を理事長とし、財団法人相愛女学園を設立、認可さる。
- 3・31 大谷光照門主を設立者として相愛女子専門学校設立の認可を得る。予科一年、本科三年(国文科、家政科、社会事業科)を置く。
- 11・19 古川橋分校(大阪府北河内郡門真町古川橋四八〇番地。寝屋川高等女学校跡地)設置。※百周年記念誌は「四条畷高女」とする。
- 昭和4年(1929) 6・5 城東練兵場にて天皇陛下の御親閲を賜わる。
- 〔10・24 ニューヨーク、ウォール街で株式暴落。世界恐慌始まる〕
- 昭和8年(1933) 〔5・20 地下鉄開通(梅田―心斎橋間)〕
- 昭和9年(1934) 5月 古川橋分校に一棟増築落成。

- 7・26 関院総裁官の御視察を賜わる。
- 9・21 室戸台風、関西一円に猛威をふるう。本町校舎は倒壊をまぬがれたが、古川橋分校では校舎が倒壊。以後、女専は津村別院の一画を借りて授業を行う。
- 昭和11年(1936)  
5・4 古川橋分校新校舎落成式。二階建校舎及び雨天体操場。工費四万一千円。
- 昭和12年(1937)  
4・1 女専に音楽科を新設。社会事業科を廃止。  
7・3 古川橋分校音楽科棟落成。工費五万円。
- 〔5月 御堂筋開通。六メートル幅の旧道を四四メートル幅とする。〕
- 〔7・7 日中戦争始まる〕
- 昭和14年(1939)  
〔9・3 第二次世界大戦始まる〕
- 昭和16年(1941)  
4・1 藤井寺に相愛第二高女発足。  
4・23 仏教交響楽の夕(於、京都宝塚劇場)。演奏、新交響楽団、指揮、山田耕筰。女専聖歌隊出演。
- 〔12・8 太平洋戦争始まる〕
- 昭和19年(1944)  
3・31 大野開蔵校長退職。佐々木慶成就任。  
4月 学徒勤労働員を実施。  
〔3・6 新聞夕刊廃止〕
- 昭和20年(1945)
- 3・13 夜半、アメリカ空軍の大阪空襲により本町校舎、津村別院ともに全焼。以後、高女の授業は古川橋分校にて行う。
- 7・1 校長佐々木慶成退職。今井秀一就任。  
8・15 天皇、「終戦の詔勅」を録音、放送。
- 昭和21年(1946)  
4・8 相愛高等女学校、糸屋町仮校舎(東区糸屋町一丁目、中大江東小学校校舎)に移転。  
〔11・3 日本国憲法公布(22年5月3日施行)〕
- 昭和22年(1947)  
3・31 教育基本法、学校教育法(6・3・3・4制)公布。  
4・1 相愛中学校発足。高等女学校2・3年は中学校2・3年に移行。新1年生一六七名入学。  
10・5 校長今井秀一退職、野々村修瀛就任。  
12・15 門主大谷光照猊下より復興資金四百万疋を賜わる。
- 昭和23年(1948)  
2・5 女専本年度卒業生より国語、被服、保健三科につき中等教員無試験検定の取扱いを許可さる。  
2・18 復興建築第一期工事起工。  
4・1 相愛高等学校発足。定員三六〇名。  
5・16 財団法人相愛女学園寄付行為を変更。総裁を廃し学校長理事長に任じその責を負う。理事長野々村修瀛、理事千葉康之、羽溪丁諦、藤井玄瀛、大野開蔵、津吹景雄、赤山得誓。
- 5・31 第一期工事木造新校舎定礎式。



10月	復興建築第一期工事鉄筋三階建校舎修築落成。二九五坪、工費一九〇万円。(旧四号館、現敬愛館西半部)	3・26	短大、女専、古川橋分校より本町校舎へ全面的に移る。
12月	第一期工事木造二階建校舎落成。二五六坪、工費四七九万円。	3・31	古川橋分校跡地を門真町に譲渡。
昭和24年(1949)		5・16	第三期工事東館鉄筋コンクリート三階建落成(旧三号館、現青光館南部分)。延一七五坪、工費六九五万円。
2・1	本町校舎に復帰。	12・2	第四期工事短大本館落成。延一七二坪、工費九七八万円。第五期工事高校本館起工。
2・2	女専音楽科、中等教員試験無試験検定の取扱い認可さる。	[9・8	サンフランシスコ講和条約調印)
4・1	女専の学則を変更し、生活科、被服科、国語科各二年、音楽科三年、別科一年とする。	昭和28年(1953)	
5・20	第二期工事体育館兼講堂定礎式。	1・13	短大に家政科(生活専攻・被服専攻入学定員各四〇名)、音楽科(入学定員二五名)の増設認可。同時に各科第二部設置認可。
12・20	体育館兼講堂竣工。木造平家建、一部二階建。一七五坪、工費四八九万円。	2・21	高校本館落成。三階延三四八坪、工費三〇万円(旧一号館、現黄光館東半部)。本館落成・短期大学設置祝賀式典を挙行。
[12・25	私立学校法公布)	4・1	短大家庭科、音楽科発足。同時に各科二部も発足。
昭和25年(1950)		4・1	高等学校に音楽課程増設。
2・1	第三期工事相愛会館起工。大谷光照猥下来校。	4・1	創立六十五周年記念式典挙行。
3・14	相愛女子短期大学認可(国文科、入学定員四〇名)。	9・14	学生 生徒の芸能祭(於、朝日会館)。
4・1	相愛女子短期大学発足。学長野々村修瀛。	9・15	創立六十五周年記念演奏会(於、中之島中央公会堂)。
5・21	相愛会館落成。延四六七坪、工費七〇九万円。	10・29	指揮、山田耕筰。演奏、関西交響楽団。
6・16	野々村修瀛転任。今小路覚瑞、学園長に就任。	11・2	市民に贈る文芸講演会(於、中之島中央公会堂)。講師、井上友一郎、亀井勝一郎、丹羽文雄。
[6・25	朝鮮動乱勃発)	昭和29年(1954)	
昭和26年(1951)		4・1	第六期工事短大本館三階増築工事落成。
3・5	財団法人相愛学園の学校法人相愛学園への組織変更認可。		
3・13	学校法人相愛学園登記完了。		

昭和30年(1955)

3・31 第七期工事東館四階増築工事落成。

4・1 短大家政科生活専攻第一部に栄養士養成施設認定。

8・31 体育館兼講堂の移転縮小工事落成。

10・1 子供の音楽教室開設。室長井口基成。

昭和31年(1956)

3・31 第八期工事高校本館四階増築工事落成。

昭和33年(1957)

1・10 相愛女子大学音楽学部設置認可。

2・25 第八期工事南本館(旧本館、現敬愛館)落成。延二二〇八坪、工費一億九千六〇九万円。

4・1 相愛女子大学音楽学部発足。学長、今小路覚瑞、学部

長、山田耕笹。入学定員五〇名(作曲学科一〇名、声

楽学科二〇名、器楽学科二〇名)。

5・10 「相愛学園七十年の歩み」発行。現在の相愛学園歌で

きる。

5・14 創立七十周年記念式典挙行。

9・22 第九期工事新一号館(現黄光館西半部)新築落成。延

三八一坪、工費三七二八万円。

〔7・15 大阪南港埋立着工〕

昭和34年(1959)

6・23〜7・12 音楽学部北海道演奏旅行。

11・17〜11・22 音楽学部北陸地方演奏旅行。

12・8 相愛オーケストラ第1回定期演奏会(以下、定期演奏

会と記す)。指揮、斎藤秀雄、東儀祐二。曲目、ブリ

テン「シンプル・シンフォニー」他二曲。於、相愛講

堂。

〔4・10 皇太子御成婚〕

昭和35年(1960)

1月 今小路学園長の詩碑「ゆかりの公孫樹に寄せる歌」建

碑。一月九日新門通り始め

4・15〜17 歌劇「黒船」(於、フェスティバルホール)上演

に際し、音楽学部学生出演。指揮、山田耕笹、朝

日奈隆。演奏、関西交響楽団。

10月 第十期工事六号館(現青光館)新築落成。延二五四一

平方メートル。工費一億三千一〇万円。

11・24〜12・2 音楽学部九州地方演奏旅行。

12・6 第2回定期演奏会(於、相愛講堂)指揮、斎藤秀雄、

東儀祐二。

〔5・19 安保騒動。国会周辺にデモ隊一万人集まり、国会空白

状態となる〕

昭和36年(1961)

11・16〜22 音楽学部四国地方演奏旅行。

11・28 第3回定期演奏会(於、朝日会館)。指揮、斎藤秀雄、

東儀祐二。

昭和37年(1962)

4月 寄宿舎豊中寮 雲雀ヶ丘家政科教室開設。

11・15〜23 音楽学部東北地方演奏旅行。

12・26 第4回定期演奏会(於、ABCホール)。指揮、斎藤

秀雄、東儀祐二、大橋博。

昭和38年(1963)

2月 福井県高浜町に臨海学舎を開設。

5・20 創立七十五周年記念式典を挙行。「相愛学園創立75周年記念誌」を発行。

10・25～11・15 音楽学部アメリカ演奏旅行。

11・22 第5回定期演奏会(於、毎日ホール)。指揮、森正、東儀祐二。曲目、モーツァルト「バイオリン協奏曲、第五番」(独奏、辻久子)他五曲。

昭和39年(1964)

4月 豊中総合グランド完成。

11・22 第6回定期演奏会(於、毎日ホール)。指揮、斎藤秀雄、東儀祐二。

11・24～27 音楽学部三重県演奏旅行。

〔10・10 東京オリピック開幕〕

昭和40年(1965)

3・31 第十一期工事旧七号館(現赤光館)旧八号館(現紫光館)新築落成。延一四八三坪、工費二億九千八百万円。

4・1 相愛女子短期大学家政科生活専攻を家政科食物専攻に名称変更

5・20 復興完成記念式典を挙行。

11・13～17 音楽学部山陰地方演奏旅行。

11・24 第7回定期演奏会(子供の音楽教室創立十周年記念。於、毎日ホール)。指揮、森正、徳丸聡子、東儀祐二。

12・29 音楽学部長山田耕祥没(80)。

昭和41年(1966)

11・14～23 音楽学部南九州地方演奏旅行。

11・26 第8回定期演奏会(於、毎日ホール)。指揮、斎藤秀雄、徳丸聡子、東儀祐二。

昭和42年(1967)

5・1 葭原泰雄、高等学校 中学校長に就任。

10・26～11・2 音楽学部東北地方演奏旅行。

11・26 第9回定期演奏会(於、毎日ホール)。指揮、斎藤秀雄、東儀祐二。

昭和43年(1968)

5・15 創立八十周年記念式典挙行。「相愛学園誌」(創立80周年記念出版)発行。

5・20 大谷嬉子の方を名誉総裁に推戴。

10・29～11・3 音楽学部北陸地方演奏旅行。

11・27 第10回定期演奏会(於、大阪厚生年金会館大ホール)。指揮、斎藤秀雄、東儀祐二、大森栄一。

昭和44年(1969)

4・1 相愛女子短期大学国文科を国文学科に家政科を家政学科に名称変更

10・25～30 音楽学部山陽地方演奏旅行。

11・25 第11回定期演奏会(於、大阪厚生年金会館大ホール)。指揮、斎藤秀雄、東儀祐二。

〔3・31 大阪市電全廃〕

〔7・20 米アポロ11号、月面「静かの海」に着陸。月面に人類第一歩〕

昭和45年(1975)

11・21 第12回定期演奏会(於、大阪厚生年金会館中ホール)。指揮、森正、東儀祐二(大阪文化祭賞受賞)。

11・29～12・6 音楽学部北九州方面演奏旅行。

(3・14 大阪万国博開幕)

昭和46年(1971)

11・1～6 音楽学部四国地方演奏旅行。

11・24 第13回定期演奏会(於、大阪厚生年金会館中ホール)。指揮、斎藤秀雄、東儀祐二、酒井睦雄。

昭和47年(1972)

4・1 相愛女子短期大学家政学科被服専攻に衣料管理士養成施設認定

6・13～23 音楽学部北海道方面演奏旅行。

11・30 第14回定期演奏会(於、大阪厚生年金会館大ホール)。指揮、斎藤秀雄、東儀祐二、酒井睦雄。

昭和48年(1973)

4・1 葭原泰雄、校長を退任。今小路覚瑞、高等学校 中学校長を兼任。

11・28 第15回定期演奏会(於、大阪厚生年金会館大ホール)。指揮、東儀祐二、酒井睦雄、大森栄一。

(10月 第一次オイルショック。物価高騰)

昭和49年(1974)

5・10 今小路学園長(大学・短大学長、高等学校・中学校長兼任)退任。

5・11 太田淳昭、学園長に就任(大学・短大学長兼任)。

5・11 木村正大、高等学校・中学校長に就任。

9・18 斎藤秀雄音楽学部長没(72)。

12・17 第16回定期演奏会(斎藤秀雄先生追悼演奏会。於、大阪厚生年金会館大ホール)。指揮、尾高忠明、東儀祐二、酒井睦雄。

(7・15 南港ポートタウン地区造成完了)

昭和50年(1975)

11・27 第17回定期演奏会(子供の音楽教室創立二十周年記念。於、毎日ホール)。指揮、尾高忠明、東儀祐二、酒井睦雄。曲目、メンデルスゾーン「バイオリン協奏曲」(独奏、景山誠治)他四曲。

昭和51年(1976)

11・24 第18回定期演奏会(於、大阪厚生年金会館中ホール)。指揮、尾高忠明、東儀祐二、酒井睦雄。

(2月 ロッキード疑惑事件ひろまる)

昭和52年(1977)

1・2 音楽学部長大橋博没(52)。一月二五日大学主催学園葬

4月 大谷光真嗣法(光照門主長子)、法灯を継承(第二四世)

11・29 第19回定期演奏会(於、大阪厚生年金会館中ホール)。指揮、尾高忠明、東儀祐二、酒井睦雄。

昭和五十二年 今小路覚瑞 一月二十一日没 一月二十七日日本葬

昭和53年(1978) 9・8 太田学園長退任。

- 9・29 藤澤実晟、学園長に就任。(大学・短大学長兼任)
- 10・14 創立九十周年記念式典を挙行。
- 12・2 第20回定期演奏会(於、大阪厚生年金会館中ホール)。指揮、尾高忠明、東儀祐二、酒井睦雄。
- (8・ 日中友交平和条約締結)
- 昭和54年(1979)
- 9・22 第21回定期演奏会(於、毎日ホール)。指揮、尾高忠明、東儀祐二、酒井睦雄。
- 昭和55年(1980)
- 3・31 藤澤実晟、大学・短大学長を退任。
- 4・1 森川晃卿、大学・短大学長に就任。
- 4・1(10・6 即如門主伝灯奉告法要。
- 9・18 第22回定期演奏会(於、毎日ホール)。指揮、尾高忠明、東儀祐二、酒井睦雄。
- 昭和56年(1981)
- 3・31 木村正大、高等学校・中学校長を退任。
- 4・1 鍋島俊樹、高等学校・中学校長に就任。
- 9・28 第23回定期演奏会(於、大阪厚生年金会館中ホール)。指揮、尾高忠明、東儀祐二、酒井睦雄。
- 11・25 大学・短大南港学舎起工式。
- (3・16 ニュートラム開通(住之江公園―中埠頭間))
- 昭和57年(1982)
- 4・1 男女共学実施に伴い、相愛女子大学を相愛大学と名称変更。
- 11・24 第24回定期演奏会(於、ザ・シンフォニーホール)。
- 昭和58年(1983)
- (指揮、尾高忠明、東儀祐二、酒井睦雄。
- 相愛大学音楽学部入学定員変更(作曲学科20名 声楽学科30名 器楽学科50名・相愛女子短期大学入学定員変更(国文学科100名 家政学科食物専攻100名 家政学科被服専攻100名) 認可
- 相愛大学・相愛女子短期大学、南港学舎(大阪市住之江区南港中四丁目四の一番地)に移転開学。
- 第25回定期演奏会(於、ザ・シンフォニーホール)。
- 指揮、尾高忠明、円光寺雅彦、東儀祐二、酒井睦雄。
- 津村別院にて蓮如上人慶讃法要。即如門主親修。初めて聖歌をオーケストラレションし、相愛オーケストラが演奏。相愛大学一回生全員が聖歌隊として出演。
- 相愛大学人文学部(日本文化学科入学定員50名・英米文化学科入学定員50名)設置認可
- 昭和59年(1984)
- 名誉総裁大谷嬉子前お裏方退任。
- 3・31 大谷範子お裏方、名誉総裁に就任。
- 4・1 相愛大学人文学部開設。
- 7・28 南港学舎体育館・食堂棟竣工式。
- 9・19 第26回定期演奏会(相愛学園拡充記念。於、フェスティバルホール)。指揮、尾高忠明。曲目、モーツァルト「フルートとハープのための協奏曲」(独奏、金昌国、篠崎史子)、モーツァルト「ピアノ協奏曲第23番」(独奏、弘中孝)、ドボルジャーク「チェロ協奏

曲」(独奏、堤剛)。

昭和60年(1985)

3・19 第27回定期演奏会(於、ザ・シンフォニーホール)。

指揮、尾高忠明、円光寺雅彦、酒井睦雄。

2・31 鍋島俊樹、高等学校・中学校長を退任。

4・1 小笠原慶磨、高等学校・中学校長に就任。

9・5 第28回定期演奏会(於、ザ・シンフォニーホール)。

指揮、尾高忠明、円光寺雅彦、酒井睦雄。

12・25 相愛大学音楽学部臨時定員増(二〇〇名↓一七〇名)

相愛女子短期大学臨時定員増(三〇〇名↓五二五名)

昭和61年(1986)

3・21\4・1 相愛オーケストラ・ジュニアの大阪姉妹都市派

遣演奏旅行(レニングラードとミラノで公演)。

4・9 本町校舎白光館・室内プール竣工式。

6・11 南港学舎ホール起工式。